

Economic Indicators

発表日: 2020 年 1 月 21 日 (木)

貿易統計(2020 年 12 月)

～2020 年の輸出は前年を大きく下回るも、12 月は前年の水準を回復～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL: 03-5221-4524)

| | | 貿易収支(億円) | | | | 輸出数量 | | | | 輸入数量 | | | |
|-----|-----|----------|---------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | | 原数値 | 季調値 | 輸出金額 | 輸入金額 | 前年比 | アメリカ | EU | アジア | 前年比 | アメリカ | EU | アジア |
| | | | | 前年比 | 前年比 | | 前年比 | 前年比 | 前年比 | | 前年比 | 前年比 | |
| 20年 | 1月 | ▲ 13,151 | ▲ 2,469 | ▲ 2.6 | ▲ 3.6 | ▲ 1.6 | ▲ 8.9 | ▲ 9.1 | ▲ 1.5 | ▲ 1.7 | ▲ 19.9 | 1.2 | 0.3 |
| | 2月 | 11,066 | 3,792 | ▲ 1.0 | ▲ 13.9 | ▲ 2.4 | ▲ 4.5 | ▲ 9.7 | ▲ 0.9 | ▲ 17.3 | ▲ 11.1 | ▲ 8.5 | ▲ 25.0 |
| | 3月 | 72 | ▲ 2,314 | ▲ 11.7 | ▲ 5.0 | ▲ 11.2 | ▲ 15.9 | ▲ 9.1 | ▲ 10.5 | ▲ 2.5 | ▲ 1.8 | ▲ 2.6 | ▲ 2.6 |
| | 4月 | ▲ 9,312 | ▲ 8,893 | ▲ 21.9 | ▲ 7.1 | ▲ 21.4 | ▲ 36.9 | ▲ 27.7 | ▲ 11.8 | 1.5 | 4.2 | ▲ 0.2 | 5.6 |
| | 5月 | ▲ 8,413 | ▲ 4,765 | ▲ 28.3 | ▲ 26.1 | ▲ 27.3 | ▲ 49.4 | ▲ 34.8 | ▲ 11.4 | ▲ 14.6 | ▲ 22.8 | ▲ 26.3 | ▲ 8.7 |
| | 6月 | ▲ 2,729 | ▲ 3,164 | ▲ 26.2 | ▲ 14.4 | ▲ 26.9 | ▲ 47.0 | ▲ 33.0 | ▲ 17.7 | ▲ 0.8 | ▲ 12.7 | ▲ 6.2 | 0.0 |
| | 7月 | 71 | 1,395 | ▲ 19.2 | ▲ 22.3 | ▲ 21.9 | ▲ 21.5 | ▲ 36.7 | ▲ 11.3 | ▲ 14.0 | ▲ 28.0 | ▲ 12.6 | ▲ 10.8 |
| | 8月 | 2,444 | 3,645 | ▲ 14.8 | ▲ 20.7 | ▲ 14.9 | ▲ 20.1 | ▲ 27.5 | ▲ 7.3 | ▲ 11.6 | ▲ 22.4 | ▲ 15.1 | ▲ 7.5 |
| | 9月 | 6,837 | 4,708 | ▲ 4.9 | ▲ 17.4 | ▲ 7.7 | ▲ 6.1 | ▲ 23.3 | ▲ 3.7 | ▲ 8.4 | ▲ 16.5 | ▲ 3.3 | ▲ 7.7 |
| | 10月 | 8,692 | 3,658 | ▲ 0.2 | ▲ 13.2 | ▲ 1.6 | 0.8 | ▲ 10.9 | 2.8 | ▲ 5.7 | ▲ 21.4 | ▲ 8.3 | ▲ 2.7 |
| | 11月 | 3,661 | 5,495 | ▲ 4.2 | ▲ 11.1 | ▲ 4.0 | ▲ 2.6 | ▲ 9.8 | ▲ 4.5 | ▲ 2.4 | ▲ 19.3 | ▲ 12.9 | 4.4 |
| | 12月 | 7,510 | 4,771 | 2.0 | ▲ 11.6 | ▲ 0.1 | ▲ 3.4 | ▲ 18.4 | 5.2 | ▲ 2.1 | ▲ 22.7 | ▲ 1.0 | 1.8 |

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○アジア向けがけん引し、20 年 12 月の輸出は前年を上回る水準に

財務省より発表された 20 年 12 月の貿易統計によると、貿易収支は+7,510 億円の黒字（コンセンサス：+9,428 億円の黒字、レンジ：+5,976 億円の黒字～+12,248 億円の黒字）となり、コンセンサスを下回る結果となった。輸出金額は前年比+2.0%%（コンセンサス：同+2.4%、レンジ：同▲3.2%～同+7.6%）、輸入金額は同▲11.6%（コンセンサス：同▲13.9%、レンジ：同▲18.3%～同▲5.2%）となった。輸出については、米国向けが同▲0.7%、EU 向けが同▲1.6%と 11 月から下げ幅を縮小したほか、アジア向けが同+6.1%となったことで、2 年 1 か月ぶりに前年を上回る結果となった。一方、輸入については依然として前年を大きく下回る水準で推移している。

品目別にみると、輸出については、非鉄金属（同+23.2%）、プラスチック（同+12.8%）、半導体等製造装置（+9.7%）などが前年を上回った。輸入については、原粗油（同▲47.9%）石炭（同▲34.8%）などの大幅な減少が続いた一方、マスクなどの織物用糸・繊維製品（同+9.2%）、通信機（同+10.0%）などが前年を上回っている。

季節調整値でみると、輸出金額は前月比▲0.1%と小幅に減少した一方、輸入金額は同+1.3%と増加に転じ、貿易収支の黒字は 11 月から縮小した。

また、同時に公表された 2020 年分の貿易統計をみると、輸出金額は前年比▲11.1%、輸入金額は同▲13.8%と、20 年は輸出入ともに大幅な落ち込みとなった。輸出については足もとで前年の水準を回復したものの、世界各国でロックダウン等が実施された 20 年 4～6 月期の急激な落ち込みが影響し、自動車などを中心に 20 年は大幅な減少となった。一方、感染拡大をいち早く封じ込めた中国向け（同+2.7%）や台湾向け（同+1.1%）などは前年を上回っている。輸入については原粗油（同▲41.7%）、液化天然ガス（同▲26.0%）、石炭（同▲32.7%）など、燃料価格の低迷が下押しに寄与した。一方で、マスクなどの織物用糸・繊維製品が同+31.5%、PC などの電算機類（含周辺機器）が同+8.6%とコロナ禍に対応した需要の品目は前年を上回った。

○実質輸出は前月比▲2.2%と持ち直しは一服も、コロナ前の水準を維持

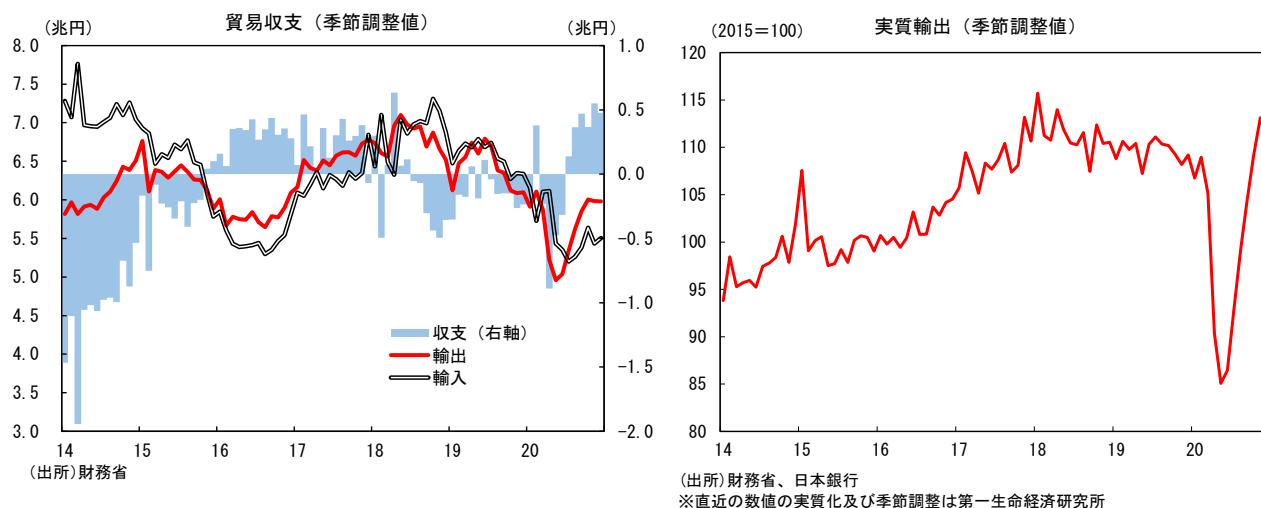
為替などの価格変動の影響を除いた20年12月の実質輸出（実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）は、前月比▲2.2%（11月：同+3.1%）と20年5月以来の減少となった。品目別にみると、自動車等の輸送用機器が同▲7.2%と減少に転じたほか、化学製品（同▲5.1%）、電気機器（同▲2.2%）など幅広い品目が11月から減少に転じたとみられる。実質輸出の持ち直しは一服したもの、コロナ前の水準を維持している。また、10-12月期でみると前期比+9.3%と、7-9月期から増加率は鈍化したものの、引き続き高い伸びとなった。

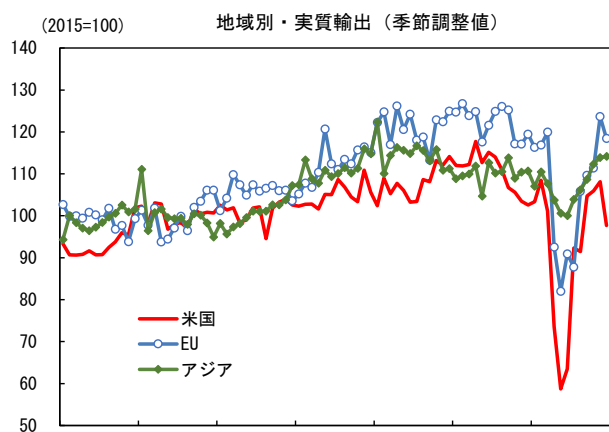
国、地域別にみると、米国向けが前月比▲9.6%、EU向けが同▲4.3%と減少に転じた。一方、アジア向けは同+0.2%と小幅に増加、半導体等製造装置などの一般機械が増加に寄与している。また、中国向けについては同▲1.4%と減少に転じたものの、依然コロナ前を上回る高い水準での推移が続いている。

○先行きも輸出入の回復基調は続くともみられるが、ペースは緩やかなものに

先行きについては、米国、中国向けを中心に今後も輸出の増加基調は続くともみられる。もっとも、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、世界経済の回復は緩やかなものにとどまる見通しであることや各国での自動車等のペントアップ需要が剥落することで、増加のペースは緩やかなものにとどまるとみられる。輸入については、日本での経済活動正常化が進むことに伴い持ち直していくとみられるが、11都府県での再度の緊急事態宣言発出により景気の下押し圧力がかかるなど、輸入の持ち直しはさらに遅れる可能性がある。

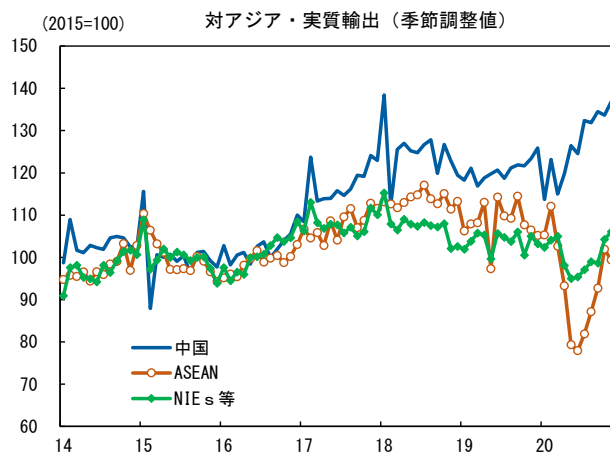
先行きのリスクは、引き続き新型コロナウイルスの感染動向である。新型コロナウイルスの感染拡大が続くなか、欧米を中心に世界各国で経済活動の制限措置がとられている。20年春の制限措置よりも緩やかなものであることから、影響は限定的なものにとどまっているが、制限措置の厳格化や期間がさらに延長された場合には、輸出は下振れる可能性が大きい。また、米国でのバイデン新大統領就任に伴う、米中関係の行方などにも注意が必要である。先行きも輸出入の持ち直し基調は続くともみられるが、不透明感は強い状況である。





（出所）財務省、日本銀行

※米国、EUの直近の数値及びアジアの実質化及び季節調整は第一生命経済研究所、EUは全期間において英国を含まない



（出所）財務省、日本銀行

※中国の直近の数値及びASEAN、NIEs等の実質化及び季節調整は第一生命経済研究所

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

